



学だより



No. 61

H31.2.8発行

自己ベスト目指して！～なわとび大会～

本日8日（金）、大・小のアリーナで学年ご

とに縄跳び大会をしました。これまで中休みや

昼休みだけでなく、家に帰ってからがんばっ

て練習し、自己ベスト目指して今日の大会に臨んだことでしょ！

学年ごとに目標設定して、たとえば4年生は4分間連続して跳び続けられるかというチャレンジに取り組んでいました。その挑戦する姿がとってもすばらしくて、私もがんばらなくっちゃと思いました。寒い中、多くの保護者の方々が応援に来てくださり、子どもたちにとっても励みになったことでしょう。ありがとうございました。

【感想】

- ◆二重跳びで自己ベストが出せた。とてもうれしい。（3年生）
- ◆友だちが上手に跳んでいたよ。数えまちがええないように気を付けて応援した。（2年生）
- ◆頑張っているわが子の姿をみてうれしかったです。家に帰ってきたらほめてあげたいです。他の子どもたちも元気ががんばっていました。（1年生保護者）
- ◆引越してきたばかりだけど、ここの学校はとても気分が良いです。みんな仲良くしてくれるので楽しいです。縄跳びもがんばりました。（2年生）



三寒四温

今日は寒さがぶり返しました。

三寒四温（さんかんしおん）は、一週間の単位でみても温かい日の方が多くなってくる今の時期を表すことばです。この先しばらくは最低気温 2～3℃、日中は 10℃前後で推移しそうですよ。平年並みとはいえ、今週半ばまで温かい日が続いたので、身体感覚がついていけずに体調を崩しやすくなります。また、花粉症の方にとっては、症状が現れ始める嫌な時期かもしれませんね。



子のお話を聞く（つづき）

前号の「子のお話を聞く」の記事では、紙面の都合で「相手の目を

見てお話を聞く」という大切なことが書ききれませんでした。

目を見て話すことに「照れくさくてい」とか「あえて目を見ないところが日本人のおくゆかさ」などという声も聞こえそうですね。でも、「目は口ほどに」とか「顔に書いてある」などと言うじゃないですか。これを裏付けるかのように、話し手が感情や態度と矛盾するメッセージを発した時、話し手の振舞いが聞き手の受け止め方にもどのように影響を及ぼすかについて、実験で測定したアメリカの心理学者メラビアンさんは、話し手の印象は言語情報以外のノンバーバル（非言語的）な要素で9割方決まること（メラビアンの法則）を明らかにしました。

- 視覚情報（しぐさ、表情、視線、容姿、身だしなみなど） …55%
- 聴覚情報（声の高低や大小、話の速さやテンポなど） …38%
- 言語情報（話す言葉そのものの意味や内容） …7%

この数値は、あくまでも「感情や態度について矛盾したメッセージが発せられたとき」という限られた条件下で人の受け止め方の調査結果ではありますが、コミュニケーションにおいては、少なくとも言語情報（ことば）そのものと非言語的要素の両方が重要だということでしょう。

子どもたちは、自分に都合の悪いことを隠そうとすると、すぐ目の動きや態度にあらわれますので、そうした気配を察知するためにも、目を見て話を聞くことが大切だといえそうです。

